

文部科学大臣賞

消費に目を向けるまで

東京都立新宿山吹高等学校 2年

渡邊 和花

2016年12月、私はボルネオ島スタディツアーに参加した。高校で入った部活の顧問の先生に紹介されたからだ。ボルネオ島は赤道直下に位置する世界で3番目に大きい島だ。ブルネイ、マレーシア、インドネシアという3つの国の領地がある。そして何ととってもボルネオの熱帯雨林は世界でも有数の生物多様性を誇っている。固有種も数多くいる。そんなボルネオの熱帯雨林がこの100年で半分以上減ってしまっているという。昔から生物好きだった私は、すぐにツアーに参加することに決めた。ツアー前にボルネオについて調べていくと、熱帯雨林の減少の大きな原因にパーム油というものがあった。パーム油は食品、化粧品、洗剤、石鹸など様々な、しかも私たちの身近なものに使われているものだった。そして、パーム油がとれるアブラヤシのプランテーション開発のために熱帯雨林が減り、生き物たちが苦しんでいたことが衝撃だった。

ツアー初日にも衝撃をうけた。飛行機がマレーシア領サバ州のコタキナバル空港に着陸する直前に見えたプランテーションの景色だ。緑豊かに見えた場所が全て、プランテーションだった。木が等間隔に並んだ、直線で森と分断された“人間の緑”だった。

次の日から2日間、現地の学生と一緒にだった。最初は漫画とか、たわいのない話をしていて。その内、プランテーションの話も出てきた。でも興味がないようだった。現地で活動していられる方の話も、全く聞いていなかった。パーム油についても私たちとは対照的にポジティブな意見ばかりだった。私は悲しみと怒りしかなかった。

ツアー中はとにかくたくさんの虫と鳥に出会った。テングザルなどにも会えた。そして最終日、保護施設の動物たちに会った。プランテーションに侵入して親を殺されてPTSDになってしまったボルネオゾウや毘で鼻の短くなったボルネオゾウ、売られるところを保護されたオランウータンなど、受けとめきれなかった。彼らのことで頭がいっぱいになった。今まで見たもの全てが、ただ漠然と

「どうにかしなきゃいけない」

と思わせた。

帰国後、まずポスターを作成した。自分の学校の人たちにボルネオ島を知ってもらうために。JICA協力隊まつりでマレーシアのブースに置かせてもらったりもした。それから他のツアー参加者と「野生生物への恩返し～ボルネオの熱帯雨林と私たちのかかわり～」というシンポジウムを企画・開催した。

ここで2つのことを学んだ。

シンポジウムの企画にあたって、SDGs について調べる機会があった。そして自分の視野の狭さに気づいた。私は人間以外の生き物のことしか考えていなかった。今なら現地学生が悪いわけではないと思える。プランテーションで働いて生きている人もいる。そういう現地の方々を忘れてはいけない。

シンポジウムには旭山動物園の坂東元園長にも出ていただいた。以前から尊敬していた方だった。園長のお話の中で、自分がボルネオという海外のことばかり考えていたことに気づいた。日本での問題についてももっと知ろう、パーム油の問題も日本の中で考えようと思った。

現在、次の行動としてパーム油を使用している日本企業への取材を考えている。日本でこの問題を考える上で、消費は切り離せない。何か商品を買うということは、それを作る企業を応援するという事だと思う。やはり私はパーム油について関心をもっている企業を応援したい。そのためにも、ただ批判するのではなく企業についてもっとよく知りたいと思う。そして、同じ考えの人を少しずつでも増やしていきたい。

消費者が変われば社会が変わると信じている。